

(2) 酸可溶物 本品 1.0 g に希塩酸 20 mL を加え、15 分間振り混ぜた後、ろ過する。ろ液 10 mL を蒸発乾固し、450 ~ 550 °C で恒量になるまで強熱するとき、残留物は 0.010 g 以下である。

(3) 炭酸塩 本品 1.0 g に水 5 mL を加えてかき混ぜた後、薄めた硫酸 (1 → 2) 10 mL を加えるとき、泡立たない。

(4) 重金属 本品 1.5 g に水 50 mL 及び塩酸 5 mL を加え、20 分間よく振り混ぜながら穏やかに煮沸し、冷後、遠心分離し、上澄液をとり、沈殿を水 10 mL ずつで 2 回洗い、毎回遠心分離し、上澄液及び洗液を合わせ、アンモニア水 (28) を滴加し、沈殿がわずかに生じたとき、強く振り動かしながら希塩酸を滴加して再び溶かす。この液に塩酸ヒドロキシアモニウム 0.45 g を加えて加熱し、冷後、酢酸ナトリウム二水和物 0.45 g 及び希酢酸 6 mL を加え、必要ならばろ過し、水 10 mL で洗い、ろ液及び洗液を合わせ、水を加えて 150 mL とする。この液 50 mL をとり、これを検液とし、試験を行う。比較液は鉛標準液 2.5 mL に塩酸ヒドロキシアモニウム 0.15 g、酢酸ナトリウム 0.15 g、希酢酸 2 mL 及び水を加えて 50 mL とする (50 ppm 以下)。

(5) 鉄 本品 0.040 g に希塩酸 10 mL を加え、水浴中で 10 分間振り混ぜながら加熱する。冷後、L-酒石酸 0.5 g を加え、振り混ぜて L-酒石酸を溶かした後、以下第 2 法により検液を調製し、B 法により試験を行う。比較液には鉄標準液 2.0 mL を加える (500 ppm 以下)。

(6) ヒ素 本品 1.0 g に水 5 mL 及び硫酸 1 mL を加え、砂浴上で白煙を生じるまで加熱し、冷後、水を加えて 5 mL とする。これを検液とし、装置 B を用いる方法により試験を行う (2 ppm 以下)。

(7) 異物 本品 5 g をビーカーに入れ、水 100 mL を加えてかき混ぜ、砂を残すように傾斜する。更に毎回水 100 mL を用いてこの操作を数回繰り返すとき、砂状の残留物を残さない。

強熱減量 15.0 % 以下 (1 g, 600 °C, 5 時間)。

可塑性 本品 5 g に水 7.5 mL を加えてよく振り混ぜるとき、著しい流動性がない。

貯法 容器 密閉容器。

## カカオ脂

Cacao Butter

OLEUM CACAO

本品はカカオ *Theobroma cacao* Linné (*Sterculiaceae*) の種子から得た脂肪である。

性状 本品は黄白色の堅くてもろい塊で、わずかにチョコレートのようなにおいがあり、敗油性のにおいはない。

本品はジエチルエーテル又は石油エーテルに溶けやすく、沸騰エタノール (99.5) にやや溶けやすく、エタノール (95) に極めて溶けにくい。

脂肪酸の凝固点: 45 ~ 50 °C

融点: 31 ~ 35 °C (融解しないでサンプルを毛细管に詰める、以下は第 2 法に準ずる)。

比重  $d_{20}^{20}$ : 0.895 ~ 0.904

酸価 3.0 以下。

けん化価 188 ~ 195

ヨウ素価 35 ~ 43

貯法 容器 密閉容器。

## カゴソウ

Prunella Spike

PRUNELLAE SPICA

夏枯草

本品はウツボグサ *Prunella vulgaris* Linné var. *lilacina* Nakai (*Labiatae*) の花穂である。

性状 本品はほぼ円柱形で麦穂状を呈し、長さ 3 ~ 6 cm、径 1 ~ 1.5 cm、灰褐色である。花穂は多数の包葉及びびく筒を付け、上部にはしばしば花冠が残存する。通例、がく中に四分果があり、包葉は心形~偏心形で、がくと共に脈上に白色の毛がある。質は軽い。

本品はほとんどにおい及び味がない。

純度試験

(1) 茎 本品は茎 5.0 % 以上を含まない。

(2) 異物 本品は茎以外の異物 1.0 % 以上を含まない。

灰分 13.0 % 以下。

酸不溶性灰分 5.0 % 以下。

## ガジュツ

Zedoary

ZEDOARIAE RHIZOMA

菝葜

本品はガジュツ *Curcuma zedoaria* Roscoe (*Zingiberaceae*) の根茎を、通例、湯通ししたものである。

性状 本品はほぼ卵形を呈し、長さ 4 ~ 6 cm、径 2.5 ~ 4 cm である。外面は灰黄褐色~灰褐色で、節は環状に隆起し、節間は 0.5 ~ 0.8 cm で、細かい縦じわ、根を除いた跡及び分枝した根茎の小隆起がある。ルーペ視するとき、外面に粗毛を認める。角質で切りにくく、その横切面は灰褐色で、皮層は厚さ 2 ~ 5 mm、中心柱は広く、これらの境は淡灰褐色の線として認められる。

本品は特異なおいがあり、味は辛くて苦く、清涼である。

灰分 7.0 % 以下。

精油含量 本品の粉末 50.0 g をとり、精油定量法により試験を行うとき、その量は 0.5 mL 以上である。ただし、あらかじめフラスコ内の試料上にシリコン樹脂 1 mL を加え、試験を行う。

## ガスえそウマ抗毒素

Gas Gangrene Antitoxin, Equine

ガスえそ抗毒素

本品はウマ免疫グロブリン中の *Clostridium perfringens* (*C. welchii*) Type A 抗毒素、*Clostridium septicum* (*Vibrio septique*) 抗毒素及び *Clostridium oedematiens* (*C. novyi*) 抗毒素を含む液状の注射剤である。